

平成27年5月29日開催 第1回美祢市総合教育会議議事録

開催日時 平成27年5月29日（金）午後1時30分から午後2時33分

開催場所 美祢市役所3階 委員会室

出席者	村田 弘司	市長	
	前田 耕次	教育委員長	
	秋山 信登	教育委員長職務代理者	
	古屋 道子	教育委員	
	井上 敏雄	教育委員	
	永富 康文	教育長	6人

出席教育委員会事務局職員	山田 悦子	事務局長	
	末岡 竜夫	事務局次長	
	千々松雅幸	〃	教育総務課長
	津守 一郎	〃	学校教育課長
	古屋 敦子	〃	生涯学習スポーツ推進課長
	高橋 文雄	〃	文化財保護課長
	新家 健司	〃	教育総務課長補佐
市長統合戦略局職員	篠田 洋司	局長	
	西村 兆充	〃	政策戦略課長補佐

9人

開 会

山田事務局長

ただいまから、第1回美祢市総合教育会議を開催します。私は、美祢市教育委員会事務局長の山田でございます。どうぞよろしくお願ひします。それでは、開会にあたりまして、村田市長が御挨拶申し上げます。

村田市長

あらためまして、皆さん、こんにちは。第1回美祢市総合教育会議ということで、教育委員会と市執行部との新たな取組となります。取組の構図が変わろうとしている中で、本質的に、将来を担っていただく子どもさんたちを、日本国、我々のような地方も含めて、どういうふうにお育て申し上げることができるかという取組だと思っております。今日は、教育委員長、教育委員の方、それから、教育長も含め、ずっと教育行政に携わっていただいている方と、市の行政本体のトップである私が親しく意見を交わし、未来に向かって、どうい

うことができるかということを経験、また、意見を交換させていただけたらと思っています。よろしくお願い申し上げます。

山田事務局長

本日の会議の委員は、市長、教育委員長、教育委員、教育長によって構成されています。本来であれば、お一人お一人御紹介させていただくところですが、時間の都合がありますので、大変恐れ入りますが、お手元の名簿をもって紹介に代えさせていただきます。今後の議事進行につきましては、会議の主宰者であります市長にお願いします。

村田市長

それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。本日は、第1回目の会議ですので、まず、この会議が設置された経緯や会議の位置づけについて、事務局から説明してください。

千々松教育総務課長

それでは、総合教育会議について説明をいたします。資料の2ページになります。総合教育会議は、市長という執行機関と教育委員会という執行機関、2つの対等な執行機関の協議・調整の場という位置づけになります。予算の編成・執行や条例案の提出を通じて教育行政に大きな役割を担っている市長と教育委員会の意思疎通を図り、美祢市教育の課題やあるべき姿を共有しながら、より一層民意を反映した教育行政を推進していくため、総合教育会議を設置するものであります。自由な意見交換としての協議と教育委員会の権限と予算執行等市長の権限が、重なるものについて調和を図るという意味での調整であります。

この会議は市長が設置して市長が招集します。会議は、原則公開ということであり、会議録を作成し、ホームページで公表することとしています。総合教育会議の運営については、資料4ページの美祢市総合教育会議運営要綱のとおりとなっています。資料1ページにお戻り願います。総合教育会議で話し合う事項は、①教育行政の大綱の策定ということで、教育の目標や施策の根本的な方針を、国の教育振興基本計画を参酌して定めることとされています。次に、②教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、③児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置であります。①の大綱については、市長の任期等を踏まえ、4～5年に1回作ることを国は想定しております。②③は、必要があれば開くという性質のものであります。総合教育会議で、調整の結果、双方が合意した事項については、互いにその結果を尊重しなければならないとされています。この事務局については、市長部局が原則ではありますが、総合教育会議における協議事項は、教育行政に関わることがメインとなりますので、

会議がより充実し、また事務が効率的に執行できるという観点から、教育総務課が、事務を担当することになっております。以上でございます。

村田市長

ただいま、事務局より説明がありましたが、質問・御意見等ありましたらこの場を出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

村田市長

それでは、美祢市総合教育会議については、説明のあったとおりとし、会議の運営については、運営要綱に沿って行うこととしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

村田市長

それでは、議事の2「美祢市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」について入りたいと思います。地教行法が一部改正され、大綱の策定が義務付けられましたが、美祢市教育委員会では、平成25年3月に美祢市教育振興基本計画を策定されています。この美祢市教育振興基本計画をあらためてこの場で、説明を願いたいと思います。

永富教育長

美祢市におきましては、平成22年3月に「第1次美祢市総合計画」が策定されておりますけど、平成27年3月、後期計画が策定されました。その中の基本目標の一つに「人の育成」が掲げられています。この「美祢市総合計画」を踏まえまして、美祢市教育委員会では、平成25年3月に、「美祢市教育振興基本計画」を策定しているところであります。その計画期間は、「美祢市総合計画」と同じく、平成31年度末までであります。これに基づきまして、美祢市の教育行政を推進しているところであります。「美祢市教育振興基本計画」とその概要版をお配りしているところでありますが、基本理念としましては、「人が育つ 人が輝く 教育の美祢」ということでもあります。教育の美祢とは、もちろん美祢市の美祢であります。山の嶺をも意味しているわけでございます。我々は、高い嶺をめざして、全ての嶺に登るつもりで、美祢市の教育に取り組んでいるところであります。また、副題として、「夢・希望・誇りをもって21世紀を生き抜く人財の育成」を掲げております。美祢市の子どもたちが、故郷への自信や誇りをもって、それぞれの夢や希望、志を抱いて、その実現をめざして、挑戦して行ってくれることを期待しているところであります。この概要版の中に、1つには、学校教育に関わる基本目標として、「生きる力を高

め、将来を担うひとづくり」といたしまして、3つの基本施策と、その下に9つの取組を掲げております。また、基本目標の2として「生涯にわたり豊かな心と体を育む環境づくり」としまして、同じく、3つの施策と9つの取組を掲げております。以上簡単ではありますが、「美祢市教育振興基本計画」についてであります。さらにこの「教育振興基本計画」を受けまして、美祢市教育委員会の、今年度の新規・重点施策につきましても、少し具体的にお話しをさせていただきますと思います。別冊の資料になりますが、学校教育の課題としましては、大きく3点あります。その1つは、小中学校のハード面、施設整備に係るものであります。2つ目は、ソフト面、児童・生徒の学習活動に係るものであります。そして3つ目は、教職員の資質向上、研修機会の充実でございます。

まず、施設整備面では、校舎と非構造部材の耐震化、小中学校の再編統合、給食調理場の統合などの課題がございます。特に、今年度は、来年4月に開校する秋芳中学校のプールの整備等、設備の充実に取り組んでおりまして、併せて、校歌や校章、制服などの制定も進めているところであります。これまでにないような、斬新で魅力と活力に溢れた、新しい学校づくりに取り組んでいきたいと思っております。

それから、2つ目の教育活動面でございますが、学力向上対策やふるさと学習の推進に努めますとともに、本年度の新規・重点施策としまして、新しくMINE グローバル人財育成事業に取り組んでいます。これは、「英語が分かる、英語が使える、英語が好きな美祢の子どもたち」の育成をめざすもので、とりわけ、小学校6年生での英検5級を、中学校3年生での英検3級の合格を目標としております。ちょうど、昨日、その一環として開催いたしましたMINE GEO English Clubの開校式を行いました。受講生はフォニックス(音声学)の教材を使いながら、ネイティブスピーカーの発音をシャワーのように浴びながら、楽しんで英語を学んでいたようでございます。また、教職員の研修でございますけど、東大の市川伸一教授を美祢市の学力向上アドバイザーに任命しておりまして、市川教授の指導のもと、「OK セミナーin 美祢」を開催するなど、美祢市は、同氏が提唱されています「教えて 考えさせて 定着させる授業」づくりの全国的な拠点の一つとなっているところであります。これらの取組をもって、美祢市は、「日本一学びの好きな子どもと教師のいる学校づくり」を推進しているところであります。

それから、社会教育、生涯学習に関してであります。市民の皆さま方、お一人おひとりの自己実現が図られますよう、そして、キラキラと個性的に輝く人生を過ごされますように、生涯学習の推進、学術・文化・スポーツの振興を図っているところであります。また、市民の皆さまが、ふるさと美祢のすばらしさ、その良さ、可能性を十分に再認識されながら、地域の活性化に自主的・主体的に取り組まれまして、そのことを通しまして、地域に繋がりや輪が生まれ、地域が元気になり、地方創生が進むような取組を進めているところでござ

います。その点で、現在、美祢市が全力で取り組んでおりますジオパーク活動は、まさしく、地域の明日を担う人づくりの一環であろうと思っております。教育委員会といたしましては、現在、日本ジオパークの確実な認定をめざしまして、担当部署一体となり、全力で取り組んでいるところでございます。以上でございます。どうぞ教育委員会の施策につきまして、御理解たまわりますよう、よろしくお願いいたします。

村田市長

教育長、非常に丁寧な説明をありがとうございました。大変良く理解できました。教育委員長をはじめ、委員のみなさん、御専門の方ばかりですので、ここで、御質問があるとは思えませんが、一応、議事進行を務めておりますので、今の教育長の説明に対しまして、何か御質疑等ありますか。

前田委員長

本市、教育予算について、市長に格別の御理解、御支援を頂いていることに対し、厚くお礼申しあげます。平素より、教育長からも、教育行政にかかる課題や、取組み等について、よく、報告を受け、また、対応の協議を行っております。さらには、美祢市行政の大きな方向性についても、協議を行っております。その上で、「美祢市教育振興基本計画」を策定したものと認識しております。よって、「美祢市教育振興基本計画」をもって大綱にさせていただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

村田市長

大変ありがたい御意見を頂戴しましたが、「美祢市教育振興基本計画」という素晴らしいものができています。教育長から説明があったとおり、これを抜きに我々の教育計画は語れないということを踏まえての、教育長、教育委員長の発言だったと思います。いかがでしょうか。

永富教育長

市長の御了解が頂ければと思います。

村田市長

私は勿論、この「教育振興基本計画」を見させていただいております。私は、行政の執行機関の長として、それを踏まえたうえで、市の大きな施策の中で、この基本計画を作らせていただいていると認識しておりますので、これをもって大綱としたいと思っております。

村田市長

それでは、議事3「地方創生を担う人づくり」について入りたいと思います。

形式に捉われることなく、活発な意見交換をしたいと思います。それぞれ、委員の方々、いろいろな思い、御意見をお持ちだろうと思いますが、それぞれが描いている人づくりということを申し述べていただいて、そのうえで、意見交換をするとうことでよろしいですか。

それでは、言い出しっぺの私からいかせていただきたいと思います。私は、行政執行機関の長でありますので、常に美祢市全般のことを考えて、政策を作り、それに基づいて施策を出し、その施策を実現するために色々事業をもっています。これは、人が育つ、人が輝く、教育の美祢、美祢というのは高みとしての嶺とおっしゃいましたが、我々が住んでいるこの美祢の地域は、素晴らしい地質遺産もあるし、素晴らしい田畑、自然もある、そこで、生まれて育つことの素晴らしさ、素敵さを、子どもたちに守ってもらいたい、知っていただきたいと思っています。そのためには、子どもさんを育てている大人、そして地域の方々が、そのことに思いを寄せていただくことが、必要だと思っています。

さっき、教育長の説明の中にジオパークという言葉がありましたが、ジオパークの基本的な考え方が、保全・教育・地域振興を3つの基本理念といたしております。保全ですが、人が持っている力を越えた宇宙の営みの中でできたものの上に、我々は住んでいるということを知って、そのことを誇りに持つこと、そして、それを守ってきた過去の人々の営みに尊敬の念を持って、それを次世代に繋げていくことを考えていかなければならない。保全ということが、すなわち、教育に繋がるということです。ですから、社会教育とか学校教育とかに分かれています。そのことをもって、人を育てていきたいと思っています。そのことを常に考えて、実行することによって、すなわち、未来に向かって繋がっていく架け橋を作っていくわけですから、これが、地域振興になるわけです。このことがジオパークの基本的な考え方です。私は、市長になった7年前からジオパークのことを言い出しましたが、これは、すなわち教育だと思っています。ですから、子どもさんたちを育てて行くためには、大人の方々が、合併市でもありますので、いろんな地域性がある。そして、それぞれが違った環境で育ってきたということがありますが、それを乗り越えて、心を融和して、一つの目的、また、多様性のある目的があるかもしれませんが、それに向かって、老若男女がやっといこうということを考えていただくということが、人づくりだと思っています。ですから、子どもさんだけを、学校教育の方に下駄を預けて、それで済んだということではいけないと私は思っています。学校教育というのは、広く大人たちがすることも理解させて、それを支え、繋いでいこうという気持ちを育てていくことが必要だろうと思います。人がいない所に、人の道はありません。崩壊してしまいそうな家ばかり残って、人が住んでいない、そして誰も耕さない田畑があって、山は荒れ放題になってしまうことを、私は想像するたびに恐ろしくなります。そうなる前に、今、我々が為すべきことをやっといこうと思っています。そういうことで、今日のこの会議もあると思います。その思いで、私はこの席に出ています。

前田委員長

私は、人づくりを見ていきますと、児童・生徒、地域住民、そして教職員がいます。これについて、私の意見を申し述べたいと思います。各学校では、特色ある教育活動を行っております。例えば、マーチングや太鼓とか、梨の栽培、野鳥活動、森林活動たくさんあります。これを通して郷土美祢を愛する子どもたちをつくっていく、また、将来、「自分たちの通っていた学校ではこんなことをやっていたんだよ。美祢はすばらしいんだよ。」と言える子どもを育てていきたい。そういう活動を各学校とも継続して欲しいと思います。

2つ目は、昨日、堀越のコミュニティセンターの竣工式がありました。私も参加させていただきました。このようなセンターを増やして、今後、地域の活性化を図って欲しい。鳳鳴等、コミュニティセンターがありますが、この取組が、今後の参考になるのではないかと考えておりました、この活動に期待しています。特に、これから、小学校・中学校の統合が進んで行きますが、学校施設をコミュニティセンターとして地域の方が活動していただくためには、どういことができるのかということ、地域の方に、堀越や鳳鳴の活動例をもって、「こういうことができますよ。」と、地域の方に説明していくと、統廃合した学校を上手に使っていただけるのではないかと考えています。

3番目に、教職員の人づくりについてですが、美祢市では、「教えて 考えさせて 定着させる授業」づくりを進めています。これをやることによって学力の向上が図れると考えております。特に教育委員会では、教職員を対象にした無銘塾、年間20回予定されています。他の市町村にない大変すばらしい取組だと思っています。一人でも多くの先生方に参加していただいて、教師としての力量や、さらには、人間力をつけて欲しいなと思っています。こういうことをしていけば、美祢市の子どもたち、地域、先生方も生き生きしてくるのではないかと考えています。以上です。

村田市長

ありがとうございます。さっそく、昨日の堀越コミュニティセンターの話を出していただきました。お年を召した方が多くなっています。そのような中で、頑張ろうという気になっていただきました。本当に大事なことですよね。無銘塾とおっしゃいましたが、先生方が自分たちの資質を高めて、頑張っていこうというのも、素敵だと思います。ありがたい御意見です。

前田委員長

美祢子ども交流塾もあります。各学校から子どもたちが集まっています。将来の美祢市を担うリーダーの育成にも力を入れています。これも、今後、継続していただきたいと思っています。

村田市長

そのとおりですね。大人がこうじゃないといけないと押し付けてしまいますと、子どもに伸び代がなくなってしまうので、色々な選択肢があることを守っていかないといけないと思います。行政でいうと、「条例に書いてあるから、法律に書いてあるから、それに従わない」という言い方をされる方がいらっしゃると思いますが、そうじゃない。決まりごとは、人間が人間らしく生きるために、作ったものだから、人間が法律や条例のために生きているのではなく、もし、それに不都合があれば、それを変えればいいだけの話です。ですから、柔軟な発想を持つべきだと私は思っています。そのためには、グローバルな視点を持っていくと。我々が住んでいる美祢から外を見ることも必要です。外から見る目を培っていくことが、大事なことだと思います。大変面白かったです。

秋山委員

先ほどもありましたが、教育予算に美祢市では他の町に比べ多くの予算を組んでいただきまして、大変ありがたいと思っています。市の財政基盤が大変重要です。教育予算に振り向けていただきまして、本当にありがたく思っています。お礼申し上げます。

特に思いましたのが、東大からの先生、台湾との交流事業、この辺が、子どもたちに非常に刺激になっています。また、学校ではふるさと学習に十分取り組んでいると思います。学校を訪問して、各学校の先生方にもいい刺激になっていると感じています。全ての児童・生徒が生きる力を育むためにあるものだと思います。コミュニティ・スクールでは、地域・保護者・学校が一体となった学校運営がされていることが素晴らしいと思います。

そして、社会教育ですが、本市には、有形無形の文化財がたくさんあります。また、「大田・絵堂の戦い」では事業をつけていただきまして、ありがとうございました。ジオパークが認定されまして、ジオパーク事業が進められていけば、素晴らしい美祢市になると思います。世界ジオパークをめざして、頑張っていると思います。

リーダーを育てるということで、市から地域への団体補助があります。これが、本当に活かされています。地域活動が盛んになっております。後継者の育成が必要不可欠だと思っています。

美祢には美祢にしかないもの、国際芸術村があります。特に英語授業と関連しながら推進していただいたらと思います。特に夏休み授業など。ALTを入れた授業を見ましたが、大変素晴らしいと思います。

また、今日行った学校では、あいさつ運動をしています。すごくいいあいさつをします。美祢市の子どもたちの素晴らしい健全育成になっていると思います。

あと、頑張るのは朝食かなと思います。正しい、食習慣を身に付けていただきたいと思います。

それにもまして、一番大切なのは財政基盤の強化だと思っています。これが、なければ、事業もできませんし、難しくなります。以上、市長さんの手腕に大変期待しているところであります。ありがとうございます。

村田市長

ありがとうございます。私もかつて、行政マンでしたが、いくらきれいごとを言っても、ベースとなる財政基盤ができていなかったら、ただのスタンブレイになります。「これならできますよ。私ならできますよ。」と言うのは誰でも言えます。それをやるためには、しっかりした基盤がないとできません。このことを理解されていない大人の方もいらっしゃいます。

今後、合併算定替えの効果が薄れて、今年、もう始まっていますが、毎年、億を超える交付税が減っています。この5年間で10億を超えるお金が、単年度で、入らなくなります。そのなかで、未来への懸け橋としての子どもたちをいかに育てて行くか、非常に大きな責任だと思っています。今、お金がないから、座して待つだけであつたら、大きな悔いを残すことになると思います。少なくなっていく財源、それを分かっておいて、それを調整しながら、この地域を未来に残していくことが、我々の大きな役目だと思っています。我々が、知恵を出し合って、絞って、現実を踏まえたうえで、未来をつくっていく。ただし、財政のことを子どもたちに言う必要はないです。絶対に言うてはいけません。それは、大人たちがしっかり担わなければなりません。一番担うのは、市長が担えばいいのです。議会の方にも、私も丁寧にそれを説明してまいります。そのうえで、大人たちがしっかりやってくれているので、僕らの夢を育もうという自覚さえ持っていただければ、必ず未来はあると思っています。

東大の先生の話がありましたが、私の考え方そのものは、小学校を出られて働いておられる、中学校を出られて働いておられる、東大を出て働いておられる。私は、全く遜色ないと思っています。人間としての信念・確信しております。中学校を出られて働いていらっしゃる方の中にも、大変素晴らしい方もいらっしゃいますし、いい大学を出られていても、そのことだけを鼻の下にぶら下げて、ちっとも人格が磨かれていない方もいらっしゃいます。学歴ということは論外と思っていますが、ただ、地方にいる子どもたちにとって、東大ってというのは、すごいところだなというイメージがあると思います。そこから、わざわざ、教授に来ていただいて、自分たちの前で、話をしてくださるというのは、おそらく、これからの未来にとって、東大ってすごいと思っていたけど、実際に先生の話聞いてみると、ある意味語弊がある言い方かもしれませんが、ただの人間ですよ。身近に感じることで、物事を可能にさせることができると思います。

井上委員

まず、こういった機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。地方創

生を担う人づくりですが、他の委員さんと私が違うのが、地域の代表者、保護者の代表的な立場で選ばれているのを自覚しておりますので、そういう目で学校の現場も見させていただいていますし、意見を述べさせていただきたいと思っています。

最初に、市長がお話しされた内容と被ってしまいますが、子どもたちに自信を持ってもらって、住んでいる美祢に誇りをもっていただくことが大事だと常々思っています。そのために、学校教育としても、美祢のいいところを実感してもらったりしていますが、それとは別に、社会教育的に、子どもの手本として大人が見せるべき姿があると思います。色々なところで、地域の活性化を図って欲しいという意向をよく聞きますが、それは、ちょっとおかしいと思っています。基本、それをいつからやろうと、立ち上がっていくのが、いいのかと思っています。そういう姿で、活動して、大人の姿を子どもたちが、例えば、お祭りとか、草刈りとか色々なイベントがありますが、そんなところで、子どもたちが見てどう思うか。この地域はいいなと思ってくれることも大事だと感じています。学校教育において、ジオパークもそうですし、歴史の深いところもあります。こういったところに、住んで、学んでいるんだよっていうことを、私たちが教えなきゃいけないというのがあると思います。それと並行して、地域の力、地元の力を見せることが大事なのかなと思います。具体的にこうしたらいいよとはなかなか言えませんが、それは、いつも教育委員として底辺で考えていることです。

今回の会議でもそうですし、美祢市の施策の中でも、子どもたちをどうしていこうという方向性になっているので、ありがたいなと思います。どんなにいい人材を作っても、たとえば、高校を卒業して外に出て行ってしまったら、なかなか、戻ってこない人が多いです。私の同級生もほとんどいないんですが、外から見て、自分の生まれ育った美祢市、自分が子どもを育てる、教育する番になったときに、美祢市に戻ってこよう。その時に、美祢市の学校教育環境がいいとか、社会教育環境がいいとか、色々な条件があると思いますが、それで、再び美祢に戻ってきてくれることを、長期的な話になるんですが、なっていければいいかなと思っています。

村田市長

井上委員の熱い思いが伝わりました。私は、美東をネットで配信されているのを、たまたま見ました。美祢を自慢にして頑張っている人がいないか探していたら、井上さんのブログを見ました。とても素敵な人が美東におられるんだなと思いました。教育畑と違った視点で教育委員会に入っていて、色々な発想を出していただきたいということで、無理を言ってお願いしたところです。赤郷の方には、レッドボーイズさんとか若い方もおられますし、一生懸命、自らが地域を変えていこうという方々がたくさんいらっしゃいます。これは、おそらく美祢のモデル地域だと思っています。市長になった時から思っていま

す。いま、いみじくもおっしゃいましたが、「地域振興をやってくれーやとか、してくれーや」と他力本願の方がいらっしゃいます。申し訳ないですが、議会にもそういった方がいらっしゃいます。「やってくれ、やってくれ」と。この議論は、ある意味不毛です。

先ほど、財政の話を申し上げましたが、無尽蔵に市のお金があって、無尽蔵にお金を使えると、そしたら要望にすべて応えられますと。もし、それができたとして、何が起こるかという、ぬるま湯の中で、何も考えずに、浸かりきって、そして怠惰な中でただ流れていく。それを見ている子どもたちは、こんな状態のなかで、楽をして生きていたら、これだけでいいと思ってしまいます。今のように財政は、美祢市だけでなく、どこも厳しいです。国そのものもそうです。そういう財源があったら、逆の立場、今、チャンスです。ストライクゾーンです。お金がないでしょ。だから、知恵を絞るしかありません。地域の方々が自分でやろうとすることを出してくる。そして、自分たちでできないことは、行政にここまでフォローアップして下さいと言ってくる。それを、私は待っています。要望だけを言って来られる方に、よく言います。要望だけを聞いてしまうと、地域の火を消してしまうことになります。井上委員が、一生懸命頑張っているのを私は知っています。ただし、ベストはありません。ベターをやっていくしかありません。だから、エネルギーが要ります。もし、高みをめざすのであれば、より高みに、もし、もぐっていくのなら、より深みに。そこが終わりではありません。おそらく人類がこの世に生まれて、それが分かっているから、これほど、文明・文化が発達したのだと思います。

古屋委員

私たちは、子どもたちが夢を持って、自分自身に、また、美祢市に誇りをもって、過ごしていけるような子どもたちを育てていきたいと思っています。言い換えれば、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちを育てていかなければならないと思っています。「美祢市教育振興基本計画」のなかに、保護者や地域にアンケートをとったものが載せてありました。大変重要だと思うけど、まだまだ、満足度が低いというものの中に、どれも、小学校の保護者も中学校の保護者も、地域の方々も共通していますが、子どもたちの学力の向上、豊かな心の育成、夢や志を育むキャリア教育の推進、コミュニケーション能力の育成の4つが、どちらかと言えば、満足度の低い評価がされています。このことについては、私たちも力を入れていますし、各学校におきましても、それぞれが、工夫して取り組んでおられるところですが、取組については、学校・市全体が、一致して、同じ方向を向いて取り組んで行くことが大事だと思っています。

例えば、学力の向上ですが、保護者の方はどのように受け止めておられるかわかりませんが、「教えて 考えさせて 定着させる授業」については、各学校が、非常に真剣に取り組んでおられます。これは、教育委員会事務局の指導のもとに行われているもので、美祢市全体の学校で取り組んでいます。こうい

った例は少ないそうです。学校毎に取り組んでいるところはあっても、市全体で取り組んでいるのは少ないというふうに聞いております。したがって、その取組は、保護者の方は、まだまだと答えておられますが、県平均や全国平均と比べても、はるかに高い数値を示しておりますし、成果があがっているものと思っております。ということで、地域も含めてですが、こういった方向で子どもを育てていきたいという目標を共通化することが、とても大事なように思えます。

それで、先ほどから、美祢市に誇りをもっている子どもたち、と言いましたが、それとともに、世界に羽ばたける子どもたちを是非育てていけばいいのではないかと考えています。世界に羽ばたくためには、自分や地域に自信がないと羽ばたくことはできません。それで、今年度から新規事業として、MINE グローバル人財育成事業というのにたくさん予算を付けていただいて、しまろうとしております。私が親なら、是非参加させたいと思うような事業でございます。学校だけでなく、市をあげて取り組むことが大事だと思っております。

それから、豊かな心を育むということで、読書活動があがっております。どこの学校も読書活動に非常に真剣に取り組んでおられて、今日も学校を訪問しましたが、目標を定めて、子どもたちが、これほど読もうというふうにやっています。そういうふうに学校がやっていますし、先日、綾木小学校が、親子読書ということで、文部科学大臣表彰を受けておられます。そういった、優れた取組をされている学校の例を広く市内に広めて、そして、家庭を巻き込んで、行えばいいのではないかと考えています。このことについては、図書館であるとか、公民館であるとか、そして学校であるとか、そういったものが連携して、美祢市で「しっかり読書をしましょう。月に1回くらい読書の日を設けましょう」というくらいに、市をあげて取り組んだら成果が上がるのではないかと考えております。他にも、教育委員会の施策や事業には、大変すばらしいものがあると思っておりますので、これをみんなで取り組んで行く姿勢を持ち続けたらいいのではないかと考えます。

村田市長

長い教育現場、行政に携わってこられた経験を踏まえての御意見だったと思います。大きく、満足か不満足か4つあったと思います。逆を言えば、こういうアンケートを取ることがすばらしいことだと思います。特に、満足だけでなく、不満足、まだちょっと足りていないというのが出てくる方がいいと思います。

逆に言えば、教育、人づくりに興味のない方は、何の考えもなく、満足にマルをされると思います。興味がある、大事と思っておられるから、不満足というところが出てくると思います。市の行政でも、総合計画を作るときに、色々なアンケートを取らせていただきますが、御自分の生活そのものに、すごく影響があるとか、そういうものは不満足がどうしても大きくなります。ですから、最も興味のあることについては、不満足度が大きくなる傾向があると思

っています。ですから、そういうふうなものが出てくるといのは、逆に言えば、ありがたいことであって、そのためには、不満足とまではいってないにしても、せめて普通、普通って書いておられたら、だいたいいい。ほぼ満足と同じと私は理解しています。だいたい普通と思われるくらいにもっていくことが必要だと思っています。

それから、グローバル教育ですが、絶対にやって行かなければなりません。田舎の学校だからいいと思います。色々なものを身に付けることができます。とは、言いながら、外から見る目が必要だと思います。

読書のこともおっしゃいましたが、私も市の職員をしていましたので、だいたい、毎週4冊ずつ本を借りに行っていました。人間の一生は、なかなか100年以上は生きることができません。実体験できることは知れています。本というのは、疑似体験ではありますが、精神世界の中で疑似体験ができますので、それが、私にとって、市長をやっていくうえでの大きなエネルギーになっています。小さいころから本を読んで行くことは、疑似体験ではありますが、力になるというふうに思っています。私の家内も読み聞かせで学校のほうに行かさせていただいております。図書館で本を選んで、読んでさしあげる。読むほうも実は、勉強をさせていただいております。ありがたいことです。大変貴重な意見をありがとうございました。

永富教育長

先ほども少し出ましたが、美祢市の小・中学校は全てコミュニティ・スクールに指定しておりまして、今年度、2年目となっております。美祢市の小中学校の保護者の方、地域の方は、とっても学校に協力的でありまして、さまざまな形で、御支援を賜っておりまして、本当にありがたいと思っております。単に色々なことを手伝うというのではなくて、学校の教育活動や、場合によっては、学校の経営の中にも参画していただいて、色々な御知恵をいただいております。そういうふうなお力を益々お借りしながら、美祢市の学校を発展させていったらと思っています。地域の方々が地域づくりの様々なお取組の中で、ノウハウを持ってらっしゃいますので、そういうノウハウを是非、学校の運営にも活かしていただきたいと思っていますし、また、学校で学校運営に参画していただいたその経験を地域づくりに活かしていただけたらと思っています。そういう意味で、学校と地域がウイン・ウインの関係で、共に手を携えていけたらと願っているところであります。

地方創生ということが課題となっておりますけど、やはり、そのためには、長期的には、人の育成が極めて重要だと思っております。ひとづくりと言いますか、人財育成は、地域の活力源になると思います。何よりも人の育成に取り組むことが、未来への投資ではないかと思っております。そういうふうな地域の未来を担う子どもたちの育成を、学校のみならず、地域の方々と一緒になって、取

り組んで行く。まさに人づくりは地域全体の課題かなと思っておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思っております。

村田市長

私が市長になって、新しい教育長をどなたにしようかと思ったとき、永富教育長は、中高一貫教育の高校の校長を、御退任になられた直後でした。県にもお願ひし、次のすばらしい道があったにもかかわらず、美祢市に来ていただきました。今、一生懸命、7年間やってきていただいております。合併市として、市民に希望を見せなければいけないし、誇りをもっていただかなければなりません。今、生きておられる方々に、安心感を与えることも必要です。しかし、終局的に、どこに収斂するかというと、何度も言いますが、未来の架け橋といいますが、歴史というのは、連綿と繋がっております。この瞬間に私たちは、生きています。今、我々は、一生懸命生きていますが、未来を繋いでいく子どもたちに、安心を与えたいうえで、夢を託すだけの余力をつくっていただきたいと思っております。やはり人材をつくって行くのは、おそらく、収斂するものだと思います。ひとづくりは、簡単な言葉のようですが、それが、究極の目的だと思います。人づくりは、難しいけど、おもしろいですね。だって、夢が与えられます。自分自身はこんなつまらない生き方しかできないけど、今、生まれたお子さんは、これからどうなるんだろうかと思うと楽しみです。私は、市長の仕事は何でこんなに、しんどいのかと思っておりますが、これからも、全力をあげて、美祢市のために頑張ろうと思っております。

これで、皆さんからの御発言を頂戴しましたが、それぞれの発言に対しまして、何か意見はありますか。

(異議なしの声あり)

村田市長

本日は、円形になっております。日本は対話です。大和の国です。ここも話の場でありますので、皆さんの思いや御意見を入れて、また、自分のなかで消化をしていただけたらと思っております。多様性があっていいと思っております。私も頑張りますので、お互いに頑張りましょう。今日は、初めての会議でしたが、とても楽しかったです。

山田事務局長

ありがとうございました。それでは、最後に、次回会議の日程ですが、平成28年度の教育関係予算について等を主な議題として、予算編成前の10月頃に開催できればと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

山田事務局長

それでは、具体的な日程については、改めて連絡いたします。以上で、第1回美祢市総合教育会議を終了します。本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。